

### 3 分野別指摘率の特徴と項目別指摘率の特徴

困難の偏りの様々な類型を見だし、援助の方向性を考察してきました。次に抽出された児童生徒群が示す困難の傾向について、学習や社会性の各分野・項目ごとの指摘率として算出し、小学生・中学生それぞれをグラフに表し、その特徴を示しました。次ページ以下に、(1)分野別指摘率の特徴と(2)項目別指摘率の特徴としてまとめています。

#### 分野別指摘率と項目別指摘率の算出方法

##### 分野別指摘率

$$\frac{\text{その分野で困難が指摘される児童生徒の延べ指摘数}}{\text{その分野の総指摘数(全員が全項目で困難だとした場合の指摘数)}} \times 100$$

例 小学生 「話す」の分野別指摘率

「話す」分野での児童の延べ指摘数 = 1 + 0 + 4 + 2 + … = 30 …………… (A)

「話す」分野の総指摘数 = 5 (「話す」分野の項目数) × 11 (抽出児童数) = 55 (B)

$$\frac{A}{B} \times 100 = \frac{30}{55} \times 100 = 55.5$$

この調査で抽出された小学生は、全体として55.5%の率で「話す」ことに困難を示す傾向があることを表す。

##### 項目別指摘率

$$\frac{\text{ある項目で困難があると指摘された児童生徒の人数}}{\text{抽出児童生徒数}} \times 100$$

例 小学生 音楽「鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当曲の演奏」の項目別  
指摘率

指摘された人数 = 5名… (A)

抽出児童数 = 11名… (B)

$$\frac{A}{B} \times 100 = \frac{5}{11} \times 100 = 45.5$$

この調査で「鍵盤ハーモニカ、リコーダー等で学年相当の曲を演奏」に困難を示す児童は、抽出された小学生のうち45.5%を占めることを表す。